

2024年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル※申請書と同じタイトルを記載すること	採択コース
ヨーロッパ3か国から学ぶ有機農業	Aコース

学生情報	
氏名	高梨幸乃
所属学部・研究科	生物資源学部
学年(出発時)	3年

渡航先情報	
渡航先	フランス、イタリア、オーストリア
渡航先滞在期間	2024年8月30日 ~ 2024年9月24日
訪問先機関等	WWOOF
訪問先機関での身分	ボランティア

渡航概要と内容
<p>環境負荷を低減した持続可能な農業生産の方法として、EUをはじめとした先進国で推進されている有機農業を学ぶために、ヨーロッパの有機農業を行っている農家にファームステイをした。</p> <p>概要として、9月の1週目にフランスで、2週目にイタリア、3週目にオーストリアにてファームステイをした。各国の有機農業を行っている農家にファームステイをするために、WWOOFという、有機農家に「食事・宿泊場所」を提供してもらう代わりに、「カ・知識・経験」を提供する仕組みのサービスを利用した。</p> <p>フランスでは、オーガニック認定を受けた農家に1週間滞在した。カボチャの収穫をしたり、イチゴの幼苗の株を充実させるために花や実を摘み取ったり、セルトレイにパクチーの種子を播種した。土曜日には、自宅の一角でマーケットを開催しており、その準備も手伝った。イタリアでは、オーガニック認定を受けた5ヘクタールほどの農家に1週間滞在した。様々な種類のキャベツをセルトレイに播種したり、ミニトマトやルッコラ、ナス、ピーマンなどの収穫をしたり、キャベツの幼苗を圃場に定植したりした。土曜日には、農場から20kmほど離れた場所で、有機作物のマーケットが開催されており、そこで会場準備の手伝いを行った。オーストリアでは、オーガニック認証を受けた46ヘクタールほどの農家に1週間滞在した。主に、小麦粉やマメ類などの穀物を中心に栽培しており、自宅の一角に常設の直売所も併設している農家だった。直売所で販売する小麦粉や、レンズマメなどを小袋に詰めて、店頭に並べる作業や、小麦を機械で挽く作業や、クルミ、プルーンの収穫を行った。</p> <p>また、各地でファームステイの他に現地のスーパーや市場に出向く機会を設けた。有機商品がどのように流通しているのかや、国ごとの農産品の特徴などについても学んだ。</p>

渡航により達成できたこと
<p>今まで座学中心に学んできた英語を、実際にホストファミリーや他のボランティアとの会話や買い物の中でたくさん使用し、以前よりも英語でのコミュニケーション能力が向上した。</p> <p>ファームステイを通して、ホストに「なぜ有機農業を始めたのか」「有機農業を行う上での苦労」など、有機農業を行う人だからこそわかる質問をしたことで、有機農業に対する知識や興味が深まった。3つの国に1週間ずつ滞在する中で、それぞれの国の言語、文化に触れ、伝統的な料理を食べ、現地の方と交流し、より視野が広がったと感じている。</p>

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

会話の中で日本の発電方法や政治、環境問題や被災地の現状を聞かれたり、それに対する自分の意見を求められたりすることがあった。しかし、知識が乏しく詳しく語るができず、悔しい思いをする場面が多くあった。海外に行き視野を広げることも大切だが、今住んでいる日本についての知識を深めることもとても大切だと感じた。

感覚や文化の違いもたくさん感じた。例えば、フランスでは開始の時間が7時と言われても実際は7時15分くらいから作業が始まったり、イタリアでは電車が1、2分遅れるのは当たり前で、15分くらい遅れていることもあった。時間の感覚が日本とは大きく違って新鮮だった。スーパーの中の商品の配置方法や、陳列されている商品も大きく異なり、包装が破れているものや、傷んでいる野菜も販売されていて衝撃を受けた。日本の常識が海外では非常識ということ強く感じた。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

自分の意見を英語で伝えようとしたとき、英語の文章力が不足していて伝えられないもどかしさを感じるものが何度かあった。また、同世代のボランティア同士の会話を聞き取ることはできても、会話に入るのに苦労したためもっと英語力があればと思うこともあった。帰国後も、毎日英語に触れ、英語で自分の考えを文章にする力を向上させたいと思っている。今回のチャレンジで、初めてヨーロッパに一人で行ったことで自信がついた。今後、様々なチャンスが無駄にせず、どんなことにもためらわず積極的に挑戦していきたいと思っている。海外の農家にファームステイし、有機農業を体験することで有機農業への興味関心が高まった。この意欲を無駄にせず、今後の学びにつなげていきたいとも思っている。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

海外でやってみたいということがある方は、ぜひ挑戦してみしてほしいと思います。このチャレンジは費用面のサポートがあるだけでなく、壮行会や成果報告会など英語で発表する機会が設けられているため、英語力やプレゼン力を向上させることにもつながります。迷っているのであれば、応募することをおすすめします。

私はこのチャレンジに参加し、1カ月弱ヨーロッパで過ごしてとても貴重な体験ができたため挑戦してよかったと思っています。公共交通機関の乗り方や、安全管理など日本とは違う点も多く、知らなかったために2万円弱の罰金を電車で取られたり、現地の言葉を話せないため円滑な会話ができず悔しい思いをするなど苦労した点はたくさんありました。しかし、ヨーロッパの街並みはとても美しく、おいしいチーズがたくさんあり、多くの人との素晴らしい出会いがありとても充実した日々を過ごせました。少しでも興味がある人は、ぜひチャレンジしてほしいです。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	330,000円
海外旅行保険	11,000円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	15,000円
宿泊費	140,000円
光熱費	学費に含まれる
食費	20,000円
その他	70,000円
合計	586,000円